

第2回 大阪圏生活支援ロボット産業拠点の形成に係る推進協議会 (議事要旨)

日時：平成17年8月5日(金)
13:30～15:30
場所：リーガロイヤルNCB「淀の間」

1 開会

2 挨拶

内閣官房都市再生本部事務局次長(以下、座長)より挨拶。

都市再生本部事務局(以下、事務局)より、率直な意見交換を担保するため、協議会は非公開、また議事要旨や配布資料については公開とする旨説明し、了承。協議会終了後、記者発表する旨説明。

3 委員紹介、資料確認

4 協議会設置要綱の改正

事務局より、協議会委員として新たに参加する滋賀県、協議会委員の組織変更に伴う変更及び協議会設置要綱(改正案)について説明し、了承。

また、協議会にロボットラボラトリーリーダー石黒氏を専門委員としておくことを報告。

5 実施計画書(案)に関する審議・了承

関西経済連合会専務理事(関西次世代ロボット推進会議事務局)向井委員より、実施計画書(案)に関する説明の前に、関西次世代ロボット推進会議議長である関西経済連合会秋山会長からのメッセージを紹介。

向井委員より資料3-1等に基づき、実施計画書(案)の検討、取りまとめの経緯及びポイントを簡潔に説明後、関西次世代ロボット推進会議事務局より、関西全体の取組概要を含め実施計画書(案)の詳細を説明。

関西次世代ロボット推進会議のプロジェクトオフィサーとして本計画の推進に当たる専門委員石黒氏から実施計画書(案)について補足説明及びこれからの抱負を含め発言。

地元及び関係府省(大阪府、京都府、兵庫県、大阪市、京都市、神戸市、近畿商工会議所連合会、内閣府、総務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省(都市・地域整備局及び住宅局)より、各主体作成資料に基づき、これまでの取組等を報告後、意見交換。その後、実施計画書(案)を了承。

主な発言は、以下のとおり。

大阪府の取り組みのベースとしてロボット振興指針を策定。ロボットの産業化に向けての社会実証実験の役割が重要だと考えており、実証実験の誘致、実施支援に取り組む。大阪市は、大阪駅前に開設したロボットラボラトリーを中心に、産学連携コンソーシアムへの支援やロボット開発企業ネットワークの運営、人材育成などに取り組んでいる。大阪市と大阪府は、今年6月に大阪ロボット社会実証実験イニシアティブ(代表：石黒専門委員)を設置し、フィールドの提供などの社会実証実験の支援窓口を一本化した。京都府はデバイスに特化した取り組みを検討している。また、人間側にたった基礎的な議論を重視し、人にとって快適な空間とは何かを産学で研究するグループを立ち上げた。京都市では、実施計画書(案)の策定と併せて市内のロボット産業の企業調査を実施。要素技術的な部分での参画を目指す。

兵庫県では、福祉のまちづくり研究所を中心に医療福祉分野に取り組んでいるが、南北

に長い多様な地域性を活かし、農林水産分野、生活空間分野などにも対応していきたい。神戸市では、医療健康・福祉介護・防災という3分野を重点としている。今年度、基礎開発から試作機製作、実証実験までを幅広く支援する開発費補助制度を新設した。大阪商工会議所は、優れたものづくり技術を有する中小企業とロボット開発メーカー、大学研究機関との、共同開発・研究、部品調達のマッチングを進める研究会を開催。滋賀県では、湖南エリア3大学の知的資源を有効活用し、医療健康福祉分野での新産業創出に取り組んでおり、事業補助金などで地域の自主的・主体的な産業振興を支援。各取り組みの中で大阪圏におけるロボット産業拠点の形成に貢献。公的助成を活用していただくにふさわしいプロジェクトへの各省庁のバックアップをお願いしたい。このプロジェクトは、地域による取組で課題の解決を目指しているということで、大変意欲的な試みと思う。

平成16年度に、国家的・社会的に重要であり、関係各府省の連携に下に推進すべきテーマということで総合科学技術会議では「科学技術連携施策群」の創設を決定。連携政策群では連携の強化により各テーマの研究を積極的・効果的に推進していく。これによって各プロジェクト間の相乗効果が発揮されて、全体としてよりすぐれた成果が生まれることを期待している。テーマ全体の目標の達成に向けて、欠落している部分があれば、その技術領域については新たな研究プロジェクトを公募するという可能性がある。その場合は大阪圏の研究グループが参加されることを期待している。

関係省庁のロボット施策の連動を行っていこうと話しているところだが、まさに大阪圏でのロボットの切れ目ない産業界、経済界、大学、関係者が一体となった有機的な連動が雛形になるのではないかと思う。

大学・産業界・自治体でそれぞれいろいろなことを行っていて、切れ目なく上手くいっているという印象がある。

実施計画書(案)にも書かれてあるようにPDCAは、とりあえずプランの最初の部分であり、この実行計画書(案)に対しても、もう少し詳細なアクションプランが出てきて、そのあと実行して評価する。是非そのプロセスを行っていただけることを期待している。

頭の中では理解しているが、実際、頭のとおり手足が動くかどうかということが一番大切なことだと思う。

近畿地域においては、産学官連携をコーディネートするため「地域バイテク懇」の活動を行っているが、関西次世代ロボット推進会議との連携を考えている。

近畿地域にはロボット産業の集積があり、また産業化に向け機運が盛り上がっているときでもあり、今後、ユーザーを巻き込んだ市場開拓を進めていく。

主に調査を通じて役割を果たしたいと考えている。

実施計画書(案)に災害低減化ロボットが記載されていたが、喫緊の課題である吹き付けアスベストを除却するようなロボットを是非開発していただきたい。

実施計画書(案)は、PDCAメカニズムが組み込まれた点で先進的である。一つでも早く成果を出されることを期待する。

実証実験は、研究費が出にくいとのことで国に援助して欲しい。

ロボットはユーザーの生活の中に入っていくことになるので、プライバシーを如何に保護するかが大きな問題になってくる。

6 その他

事務局より、次回協議会を来年5～6月頃を目途に開催すること等を説明。

7 閉会

以上